



和歌山市、人口減少は一部鈍化も高齢化は進行

Table with 6 columns: District, 2015, 2010, 2015, 2010, 2015, 2010. Rows include 本町, 城北, 広瀬, etc.

総務省統計局は、このほど「平成 27 年国勢調査」の地区別・年齢区分別の結果を公表しま
した。これを分析すると、和歌山市においては、高齢化はなお進行しているものの、年齢層に
よっては人口が増加に転じていることがわかりました。

着実に進む高齢化
左の表は、2 年前の
国勢調査の結果をもと
に、和歌山市全市と、
市内 42 地区ごとに年少
人口割合（14 歳以下）
・生産人口割合（15～64
歳）・高齢人口割合（65
歳以上）を算出し
（65 歳以上）を算出し
たものです。ここに
わかつく 142 号でご
紹介した「平成 22 年国
勢調査」による結果を
併記してみますと、全
市の高齢化率が約 3
・7 ポイント上昇してい
るほか、ほとんどの地
区で高齢人口割合が 3
ポイント以上高くなっ
ています。なかには 6
・7 ポイントの大幅な
上昇となった地区もあ
ります。

増加？
和歌山市への転入が
増加している地区もあ
りますが、全体的にみ
ると漸減傾向であるこ
とには変わりません。
下の表は、5 歳刻み
で区切った人口ごと
に、5 年前の調査時と
比較してどう増減した
のかをあらわしたもの
です。これまではほと
んど年齢区分で 5 年
前と比較して減少して
いたのですが、最新の調
査では、若い世代の中
心に 5 年前より人口が
増加しているとの結果
が出ました。20 歳前後
で一旦大きく減るのは
多くの地方都市でみら
れる現象ですが、20 代
後半で早くも増加に転
じているのも興味深い
ところではあります。こ
れは転入による社会増が、
転出や死亡などといった
社会減・自然減を上回
ることを意味していま
すので、特に 2010
年からの 5 年は比較的
若い世代の転入が多
かったということにな
ります。その意味で、
人口減少の傾向はやや
鈍くなっているともい
えます。

地域間格差への
対応が必要？
これらのように、少
子高齢化は進行してい
るものの、年齢層に
よっては人口が増加す
るといった複雑な環境に
おかれている和歌山市
ですが、総数としては
人口は年々減少してい
ますし、和歌山市内の
42 地区間でも年齢構成
の格差が広がり始めて
います。したがって、全
局的

【左】全市と 42 地区の人口割合の 5 年前との比
較。年齢が特定できない人口の存在や四捨五入
の関係で合計は 100%にはなりません。総務省
統計局、和歌山市企画課ウェブサイト掲載の
データをもとに独自に算出したもので、行政等
の公式発表とは異なることがあります。

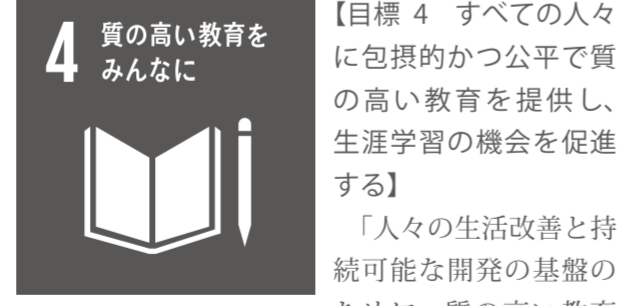
Table with 2 columns: Age Group, Percentage. Rows include 5-9, 10-14, 15-19, etc.

【表の見方】例えば上記の 10-14 の 05
→10 の欄の数値は、05 年時点で 5
歳～9 歳だった人口と 10 年時点にお
ける 10～14 歳人口を比較した割合。つ
まり、このケースでは前回調査で 0
→4 歳だった人口が 5 年間で 1.59% 減少
している。同様に 15 年時点では、10
年に比べて 2.97% 増加している。

みんなでつくる情報板
わかやまイベントボード

- 美ウォークを学んで、フルーツを楽しむ
●メダカカフェ
●北川とわ Trussonic ～ towa kitagawa trio ～
●和歌山城ブルーライトアップ

SDGs 国連・持続可能な開発目標
を知らおう ⑥



【目標 4 すべての人々に包摂的かつ公平で質
の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進
する】
「人々の生活改善と持
続可能な開発の基盤の
ために、質の高い教育
が重要である」と SDGs
では訴えています。しかも
「すべての教育レベルでこの目標を達成できている
国はほとんどない」とも指摘しています。そんな
目標 4 はどのような内容でしょうか。
2030 年までの目標としては、①すべての子ども
が性別に関係なく、無償かつ公正な初等・中等教育
を修了できる、②すべての子どもが性別に関係なく、
乳幼児の発達とケア等を通じて初等教育を受ける
準備ができる、③性別に関係なく高等教育を受ける
機会が提供できる、④技術的・職業的スキルを有
する成人の割合を大幅に増加する、⑤教育におけ

るジェンダー格差の解消と障がい者等の教育機会
の確保、⑥すべての若者に読み書きと基本的計算能
力を持たせる、⑦すべての学習者が持続可能な開発
を促進するために必要な知識と技能を修得する、
の 7 点が挙げられています。
そのために、⑧すべての人々に安心して教育が受
けられる環境を整備すること、⑨2020 年までに発
展途上国を中心に高等教育への奨学金を大幅に増
加させる、⑩2030 年までに発展途上国を中心に質
の高い教員を大幅に増加させる、という行動目標
を挙げています。
次回取り上げる「目標 5」が主にジェンダー（社
会的性差）についての項目ですが、この教育・学
習に関する目標でも「ジェンダー」や「性別に関
係なく」といった言葉が多数登場しています。SDGs
の前文でも「人類の潜在力の開花と持続可能な開
発の達成は、人類の半数に上る女性の権利と機会
が否定されている間は達成できない」としており、
性別によって教育機会に差がある状況は望ましく
ないと強く訴えています。
また、年齢や人種、民族の違いに関わらず、障
がい者や移民、先住民等であっても、社会へ健全
に参画するための生涯学習の機会が提供されるべ

きである、ともしています。
日本全体を見ると小学校・中学校の義務教育を
はじめ高い教育水準を有している、といわれてい
ます。性別に関係なく教育を受けられる環境もあ
ります。しかし、高等教育機関への進学を選択肢
が限られている地域も少なくなく、障がいを持っ
ている方の教育機会の不足を訴える動きがあるの
も事実です。
また、経済的事情で高等教育機関への進学を断
念せざるを得ないという事例が昨今の「奨学金問
題」を契機に改めてクローズアップされたり、と
まだまだ改善の余地はありそうです。
また、生涯学習の機会もすべての地域で十分に
提供できているわけではありません。「教育」や「学
習」というと、どうしても学校機関のほうが優先
されがち。公民館や図書館のように生涯にわた
って学習が続けられる機会を提供している施設
への眼差しはどれも後回しになっている、そんな
思いを持っている方も少なくないのでは？
果たして日本は 2030 年までに目標 4 をクリア
できるでしょうか。